

活動名 再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	団体名	特定非営利活動法人食べて語ろう会
	地域	広島県広島市
	代表者	副代表 田村 美代子
	支援金額	20 万円
活動概要		
<p>1. さまざまな事情により家庭で満足に食事が摂れないために、万引き等の非行に陥った子供たちに、手料理を提供し、悩みを聞くなどしての立ち直りの支援。</p> <p>2. 毎日の食事作り、講演会・交流会（食事会）・各関係機関との連携</p> <p>3. 再非行をした子供たちの保護者への子育てに関するアドバイスと支援</p> <p>4. 研修会、運営会議</p> <p>◆実施時期・回数</p> <p>1 食事の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横川の家」（広島市西区）で不定期に ・中央公民館（広島市中区）で毎月第1・第3日曜日 ・中本忠子理事長宅（広島市中区）でほぼ毎日 <p>2 講演会・交流会 9/6（日）中央公民館 視聴覚室・実習室</p> <p>3 上記活動のための研修会・会議等（中央公民館・バラ園他）を30回/年</p> <p>◆参加人数</p> <p>食事の提供 約2,580名、講演会・交流会 約50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員約2,630名</p>		



調理風景



公民館バザー おでん販売



バザーでの調理風景



NPO 法人として認証を受け、設立総会を開催

◆実施に伴う効果

1. 食べて語ろう会に来る少年たちによる万引きやカツアゲなどの非行が減少している。
2. 中本忠子理事長の活動が広く知られるようになり、テレビ・新聞等の取材を受けることが多くなった。また、11月には社会貢献支援財団から表彰を受けた。
3. 貧困等のために食事を満足に摂ることができない子供たちに、無料で食事を提供する子供食堂が全国的に広がっている。この活動の先駆をなしたのが中本忠子と食べて語ろう会。

◆苦労した点

- ・食事の提供は毎日のことですから、食料費がかさむということ。少ない予算で、栄養に富み、たくさんの量の料理を作るために苦労している。
- ・ワンルームマンションを借りて「横川の家」を開設したが、部屋が狭いために、多くの子供を受け入れることができない。また、マンションの入り口はオートロックなので、ドアホンを鳴らして開けてもらう必要があるが、子供たちはそれをいやがる。料理を作るスタッフも足りない。
- ・中本忠子やスタッフが留守の時、ご飯を食べることができなかった子供が万引きをすることがあるということ。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・新しく店舗、もしくは住宅を借り、そこで食事を提供し、「横川の家」は自宅に帰ることができない子供のためのシェルターにしたいと考えている。しかし、そのためには常駐できるスタッフが必要ですし、給料も支給しなければならない。スタッフになるための研修も必要ですが、現在はそうしたことができるだけの状況ではない。
- ・いかにして若い人にスタッフになってもらい、活動の幅を広げていくか、そして子供たちやその保護者の相談に応じることができる経験豊富な人に協力してもらうかが今後の課題。それは、人材とお金の不足をどうするかという問題でもある。
また、来年度には認定NPO法人として認定を受けられるよう目指している。

◆活動を終えての感想・意見等

食べて語ろう会の活動には、これでおしまいということがありません。毎日休むことなく継続していく活動です。マツダ財団の助成金のおかげで、食事によって非行少年を支える活動、そして3度の食事すら摂れない少年たちがいることを多くの人に知ってもらう広報活動ができることに感謝しております。ありがとうございます。